# NIE実践報告

１．タイトル：新聞をより身近なものに

２．学校名

釧路市立釧路小学校

３．実践者名（代表者名）

池田　福重

４．学年

第５学年

５．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語　２７名

６．単元（本時の学習課題）名

自分の考えを明確にして書く

７．目標（狙い）

自分の考えや調べたことをコラムにまとめて、読みあって交流する。

８．評価の視点

自ら課題を持って資料を集め、その資料を活用し、読む人にわかりやすいコラムをつくることができたか。

９．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「コラムを書こう」（教科書教材：教育出版）　[国語：１０時間]

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①コラムについて読んだ経験や初めて知ったことを書く。　（１時間）
②『鳥は気象予報士』を読んで、気がついたことをノートに書く。（１時間）
③自分で書きたいことを見つけ、資料を集める。　（２時間）
④コラムを書き、推敲する。　（４時間）
⑤書いたコラムを発表し合い、感想や意見を交流する。　（２時間）

（留意点）
・新聞やインターネットだけでなく、身近な本・あるいは家族や知人など、広い範囲から取材をするように伝える。
・読者が興味・関心を引きやすいように、題名や挿絵、書き方などに工夫をさせる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

自分の習い事や趣味、または四字熟語など幅広い分野からのコラムが集められ、子ども達は初めて知る事柄に関心も高く、積極的にコメントを書いていた。自分のコラムがほめられ、朝の一言ニュースに広がりが出てくる子どももいた。

12．成果と課題

多くの新聞の構成やコラムの内容が、子どもたちにとって具体的な参考例となっていた。国語科の学習の中でも系統立てて行うことで、新聞がより身近な情報源として子どもたちの生活に溶け込む結果となった。
課題は、他教科との関わりを持たせること、年間を通して、新聞を活用できる時期や教科を絞り込むことである。ある時期だけでの単発なもので終わってしまっているので、継続性を持たせたい。